Japan Geoscience Union Meeting 2010
(May 23-28 2010 at Makuhari, Chiba, Japan)
©2009. Japan Geoscience Union. All Rights Reserved.

ACG032-P02 会場:コンベンションホール 時間: 5月26日17:15-18:45

JAMSTECコア試料の一般利用への公開

JAMSTEC core samples are open to after-moratorium requests

富山 隆將[1*], 町山 栄章[1], 徐 垣[1]

Takayuki Tomiyama[1*], Hideaki Machiyama[1], Wonn Soh[1]

[1]海洋研究開発機構高知コア研究所

[1]KOCHI/JAMSTEC

海洋コア試料は，ピストンコアラーや海底掘削など，様々な方法で採取された，円柱状の堆積物・岩石試料である．科学目的での海洋コア採取は，海洋底の動的システムや，地球環境の変動や生態系の変遷など，地球史研究のため，一般的に行われている．海洋コア試料に対しては，幅広い研究分野からの科学的興味が寄せられており，地球科学の発展のためには，多くの研究者や教育者がそれらを利用できることが重要である．

JAMSTEC(海洋研究開発機構)は，コア試料の主要な供給源のひとつであるIODP(統合国際深海掘削計画)の実施機関としての活動を行う一方で，これまでにも機構保有の研究船により，コア試料の採取を行って来た．2008年度より，これらのコア試料についても，試料採取後，最大２年間の公開猶予期間を置いた後に，一般の科学・教育目的の利用に供されることとなった．

国内・国外の研究者や教育者は，機構の保有するコア試料を，研究航海当時の乗船研究者らの試料採取目的に限られず，利用する事が出来る．研究の現場では，自分の研究のための補足的な実験や観察に既存の試料を用いることができ，また文献から得た着想を元に，文献と同一の試料を用いて研究を行う事もできる．教育の現場では，実際のコア試料を用いた展示や処理作業，分析作業を通して，学生や訓練生を指導することができる．試料やデータベースが保存・整備され，再分析や再実験の機会が生まれることは，客観的証拠に基づいた地球科学の信頼性を確保する上でも，利点がある．

現在，約3500セクションの機構コア試料が，KCC(高知コアセンター)に保管され，キュレーターにより保管・管理されている．これらの試料については，順次公開作業が進められており，2008年以前に太平洋や日本海のさまざまな場所で採取されたピストンコア試料や，地球深部探査船「ちきゅう」で行われた試験掘削(CK05-04およびCK06-06;下北半島沖)により採取された掘削コアなどが既に利用可能である．本年度には，2008年に実施されたKR08-10航海(日本海溝・三陸沖)やMR08-06_Leg1航海(東南太平洋～チリ沖)で採取されたコア試料などが公開試料のリストに加えられる予定である．これら「新しい」コア試料については，JAMSTECで2008年度より施行された現在のデータ・サンプル取扱規約に従って管理されているため，モラトリアム期間を通じて，よく整理された状況にある．

研究者や教育者は，ウェブサイト「JAMSTECコア試料キュレーション」[1]上で，サンプル利用申請書や所蔵試料の検索システムへのリンク，関連データベース[2-4]のリスト等を含むキュレーション情報にアクセスすることが出来る．利用希望者は，肉眼記載や写真画像，物性測定値などのオンライン・データに基づいて試料を選択し，Eメールで利用申請を行うことができる．機構コア試料キュレーターは，試料の使用量や使用方法について希望者と議論し，様々な科学支援を行っている．

[1]「JAMSTECコア試料キュレーション」http://www.jamstec.go.jp/kochi/jc_curation/j/
[2]「JAMSTECコアデータサイト」http://www.jamstec.go.jp/coredata/j/
[3]「JAMSTECデータ検索ポータル」http://www.jamstec.go.jp/dataportal/index.html
[4]「JAMSTEC観測航海データサイト」http://www.jamstec.go.jp/cruisedata/j/

キーワード:コア試料,堆積物,キュレーション,試料管理
Keywords: core sample, sediment, curation, sample management